



# 2030年への道標、SDGs。

2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs(エスディー・ジーズ)」。

SDGsが採択された背景には「このままでは地球が持たない」という危機感があります。18世紀後半に産業革命が始まり、石炭や石油などのエネルギーを自由に使えるようになったことで、私たちの生活は劇的に変化し、当時とは比較にならないほど便利な生活が送れるようになりまし。

その一方、それら化石燃料の燃焼に伴い発生する二酸化炭素などの温室効果ガスの増加により、世界の平均気温は産業革命前から約1℃上昇しており、そのたった1℃の上昇が世界各地、そして日本でも大型の台風や豪雨による気象災害をもたらしています。

また、人々が豊かな生活を求めることにより、富の集中が起こり、先進国と途上国との間で貧富の大きな格差が生じています。さらに、現在約76億人とも言われる世界総人口は毎年急速に増加しており、今世紀末には100億人を突破する見通しです。

このままの生活を続けてしまうと、さらに気温は上昇し、

食料や金属などの資源が不足し、地球と人間の生活は破たんしてしまうという状況の中、生まれ

SDGsは貧困や不平等を無くすといった社会分野の目標や、経済成長や技術革新などの経済分野の目標、さらには気候変動対策や陸、海の保全といった環境分野の目標まで、世界を

「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させる」というものがあります。

このターゲットの1つに、2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させる」というものがあります。

本来食べられるのに捨てられてしまう食べ残しや店舗、家庭での食品廃棄などの「食品ロス」は年間約646万トン発生して

このターゲットの達成のためには、例えば家庭や外食での食べ残しを無くすことや、賞味期限切れの食品の廃棄や売れ残りを防ぐための買い物の仕方の工夫といった身近なことが解決の

地球のことを考えて、できることから行動することで、持続可能な社会を築いていきましょう。



## SDGsの取組をご紹介します② 循環型ユニフォームでCO2の削減を —わくわくドキドキ、古着でつくる循環型社会— 株式会社テックサプライ

テックサプライは幸楽輸送(株)、NPO北海道c i u b等の団体・企業との連携で、SDGsの目標達成に向けてさまざまな取り組みをしてきました。昨年11月には札幌地下歩行空間(通称チ・カ・ホ)にてイベント「SDGs x コミュニティアートキャラバン」に2日間参加しました。

2016年、日本環境設計(株)の新しいサイクル技術「BRING(プリング)」との出会いから、古着が新しい製品の材料になることを多くの市民に知っていただく活動を続けてきました。同年、映画「バック・トゥーザ・フューチャー」に登場した、廃棄物で走るタイムマシンカー「デロリアン」を、札幌で初めて古着でできたエタノールで走らせるイベントを開催し、新聞・TVでも注目を集めました。その後、札幌ドームでの北海道日本ハムファイターズの試合で古着回収を呼びかけたり、日本環境設計の岩元会長の講演会を企画したり、わくわくドキドキの古着リサイクルを広めてきました。

現在はポリエステル由来のユニフォームを産業廃棄物として破壊することなく、新しいユニフォームの材料として活かすBRINGにより、CO2削減・経費削減につながる循環型ユニフォームを販売することで、SDGs 9番・12番・13番に貢献できる事業をスタートしました。

BRINGの画期的な点は、服を分子レベルまで分解して精製するため、多少の汚れが付いていても問題なく再生できることです。昨年からは今年にかけては、日本環境設計と日本航空のプロジェクト「10万着で飛ばそう! JALパイオ燃料フライト」にNPO北海道c i u bとともに参加しました。今後は道内にBRINGのプラントを誘致するためさらに活動の輪を広げていきます。

女性が働きやすい  
社内環境に  
取り組んでいます。



循環型ユニフォームで  
学校・病院・オフィスでの  
SDGsの取り組みを  
サポートします。



ビルメンテナンス業として  
なるべく自然資材の  
洗剤を使い、  
海洋汚染を減らします。



BRINGプロジェクト、  
SDGsの活動、省エネ事業で  
NPO、行政、企業と  
連携しながら  
持続可能な地球環境へ  
取り組みます。



札幌市環境局環境計画課推進係長  
佐竹 輝洋

宮城県出身。北海道大学理学部卒業後、札幌市入庁。環境教育や温暖化対策等の環境政策を担当し、環境省地球温暖化対策課への出向経験を経て、2019年より現職。2018年3月に策定した第2次札幌市環境基本計画へのSDGs導入や、同年6月に札幌市を含む全国29都市が選定された「SDGs未来都市」などを担当するとともに、SDGsの普及や実践に向けた様々なセミナーや講演会等へ登壇している。